

(公社) 日本鍼灸師会 全国大会 in 愛知大会レポート

ランチョンセミナー：「折鍼から学ぶ鍼施術の安全性」

講師：稲葉巧（セイリン株式会社代表取締役社長）

報告者：永島茂雄（学術委員会）

鍼メーカーの(株)セイリン稲葉社長から、折鍼事故の事例と折れた鍼の断面を見ながら、折鍼の原因と事故対策について、講演いただきました。

まず、製造過程（伸線加工）の段階でおきるキズ「へげきず」について、鍼先の電子顕微鏡画像を示し説明、加工・製造の段階で検品されており、これによる折鍼事故は報告されていないようです。

次に、折鍼が起きた鍼断面図を電子顕微鏡で観察すると、鍼体側・鍼柄側ともに同心円状の伸張ディンプル（延性破壊）が見られ、ねじれた痕跡が確認されています。捻鍼法などのねじれ現象がなくても、強い伸張動作によっても折鍼が報告されていて、筋の硬直状態や患者の体動等によっても誘引されると考えられます。

鍼通電についての質問もありましたが、鍼通電による腐蝕などは確認できず、あえて鍼通電の実験は社内で行われていないようです。

注意事項として、纏めますと、

1. 鍼施術ではなるべく一定方向の捻鍼術は行わない、抜鍼時も無理やり引っ張らない。
2. 筋の強直状態、体動など、患者さんの状態を観察しながら、刺鍼する。
3. 刺入深度には十分注意して、鍼体の上部3分の1を残しておくこと。
4. 箱に記載された使用期限は滅菌状態が保たれていることを証明するものなので、なるべく期限以内の使用を推奨する。